

丹波篠山市立城東小学校 学習・生活習慣に関する調査結果の概要に係る資料

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査及び、全国学力・学習状況調査は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本調査について、本校としての分析結果をまとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。

Ⅰ 丹波篠山市学力・生活習慣状況調査(5年)及び全国学力・学習状況調査(6年)の結果について

【国語】

5年生、6年生ともに、読み取りに課題が見られます。複数の文章や資料を関連付けて考えること、また、文章全体の構成や筆者の主張を捉えることに難しさがあるようです。特に、文章を要約する問題では、本文の言葉を自分の言葉に言い換えること課題があることが明らかになりました。

これらの課題に対しては、短い文章からキーワードとなる言葉を見つける習慣が必要であると考えます。普段の学習から大切な言葉に線を引くこと、要約することに力を入れていきます。段落ごと、場面ごとで何が書かれているのか、伝えたいことは何かを自分の言葉でまとめる力を学習の中で取り入れていきます。また、語彙力を高めるために、継続的に読書する習慣をつけます。分からない言葉を調べるだけでなく、その言葉を使って文を作ったり、簡単な言葉に言い換えたりするといった活動を通して、言葉の定着を図ります。

【算数】

〈5年生〉「わり算」と「図形」に課題が見られます。特に、2けたでわるわり算と四角形の性質を理解できていない児童が多いことが分かりました。多くの児童が問題に取り組んでいるものの、正答率が低く、基礎的な知識が定着していないと考えられます。

〈6年生〉「小数」と「分数」に課題が見られます。特に、小数のたし算と数直線上の分数の読み取りに多くの誤答があり、基礎的な計算力と概念理解に課題があると考えられます。また、記述式の問題には、多くの児童が取り組んでいるものの、正答率は低く、思考過程を論理的に記述する力が弱いと考えられます。

これらの課題を解決するために、基礎基本の定着を図っていきます。授業や家庭学習において復習を取り入れ、計算力を高めます。また、図形や分数の理解においては、デジタル教材や具体物などを用いて、体験的な活動を取り入れ、図形の性質や量の感覚を養います。さらに、なぜその答えになるのかを説明する時間を確保します。日常生活と関連付けて考える問題に取り組むことで、学んだ知識を応用する力を育てていきます。

【理科】 ※6年生のみ

「生命」の分野に課題が見られます。特に、花の部位の名称を忘れている、または混同している児童が多くいました。さらに、学習内容と生活との結びつきが弱いという課題が見られます。また、記述問題では、無回答は少なかったものの、多くの誤答がありました。

これらの課題を解決するために、生活と結びつけた学びを大切にしていきます。知識を暗記するだけでなく、「見る・触る・実験する」といった五感を使った活動を通して、定着につなげていきます。観察や実験の前に「どうなるんだろう?」「なぜそうなるのか?」という疑問を持たせることで、主体的な学びを促します。

2 生活習慣・学習習慣(3～6年)について

家族・友だち・先生の支えを感じている児童が多くいることが分かりました。学級や家庭などでがんばりを認め合って評価し合うことが、達成感や充実感につながっていると考えられます。また、多くの児童が規範意識を持って生活していることが分かりました。

生活習慣・学習習慣については、基本的な生活習慣に関わる質問に対して、肯定的に回答した児童が多く見ました。しかし、学習時間や読書量に関しては、どの学年においても二極化が見られます。自主学習の方法を知ることや読書習慣を少しずつ身につけることが必要であると考えます。

今後、より良い生活習慣・学習習慣が身につくよう、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化や読書の推進に向けて取り組んでいきます。学校においても、「たのしい・わかる・できた」と感じられる授業づくりをめざし、自己肯定感が高まる活動を推進します。